

船舶事故調査報告書

平成26年6月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	浸水
発生日時	平成25年6月21日（金） 07時15分ごろ
発生場所	北太平洋西部 宮城県石巻市所在の金華山灯台から真方位117°632海里（M）付近 （概位 北緯32°58.7′ 東経152°47.1′）
事故調査の経過	平成25年6月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ヨット ^エ ^オ ^ラ ^ス AEOLUS、5トン未満 260-33463兵庫、個人所有 8.54m (Lr) × 3.03m × 2.01m、FRP ディーゼル機関、20.1kW、平成6年12月
乗組員等に関する情報	船長 男性 57歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成16年9月30日 免許証交付日 平成21年9月1日 （平成26年9月29日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	不明
事故の経過	本船は、船長及び乗組員1人が乗り組み、北太平洋を横断するため、船首約0.5m、船尾約2.0mの喫水により、平成25年6月15日13時30分ごろ福島県いわき市小名浜港からアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴに向けて出港した。 本船は、船長が右舷船尾の、乗組員がサロンのそれぞれの寝台で仮眠をとり、約090°の船首方位、約7.0ノットの速力により、自動操舵で帆走中、平成25年6月21日07時15分ごろ、金華山灯台から真方位117°632M付近において、右舷船底でバンという音1回を伴う強い衝撃が、1秒以下の間隔で3回連続して発生した。 船長及び乗組員は、船底に異状がないかを確認したところ、サロンの床下に浸水を認め、直ちにビルジポンプ2台を運転して排水を試みたが、サロンへの浸水量が増加し続けることから、排水が困難である

	<p>と思い、船舶所有者を介して海上保安庁に救助を要請し、船体を放棄して離船することを決め、08時12分ごろ本船から救命<small>いかだ</small>筏に移乗した。</p> <p>船長及び乗組員は、21日18時14分ごろ海上自衛隊の救難飛行艇によって救助され、23時ごろ海上自衛隊厚木基地に搬送された。</p> <p>本船のその後の動静は、不明である。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南南西、風力 6～7、視程 約1km 以上</p> <p>海象：うねり波向 南南西、波高 約3～4m</p>
その他の事項	<p>本船は、レーダーを8Mレンジとして作動させ、アルパの警報を距離4Mに設定していた。</p> <p>本船の船尾左舷側に設置されたビデオカメラには、船体に衝撃が発生する前、波間の海面に海洋生物1頭から2頭のひれ及び衝撃発生後、右舷側至近の海面下に海洋生物の背の映像が記録されていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、北太平洋西部を東進中、海洋生物と衝突したことから、浸水した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、北太平洋西部を東進中、海洋生物と衝突したため、浸水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コックピットに当直者を可能な限り、配置すること。